建築デザイン研究室

Architectural Design Lab.

福原 和則

FUKUHARA, Kazunori / Professor

眠らない街のミュージアム

Museum of Town that Never Sleeps

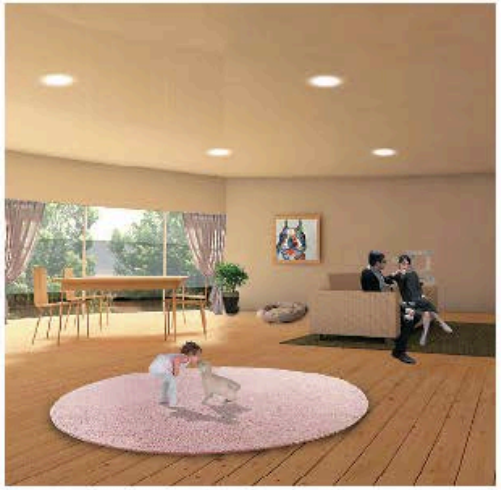
昨今、夜間に対しての需要が高まってきている。これは産業の発展によるものでそれに伴い夜間でも活動している人の割合は増えていっている。だが夜間に観光する場所は少ない。大阪の中心である難波も例外ではなく観光スポットであるなんばグランド花月は昼には多くの観光客で賑わっているが夜になるとガラリと変わり人通りが少なくなり、飲み屋などが多い戎橋や宗右衛門町の周辺が賑わっている。そのため千日前より南に位置する戎橋筋の商店街も閑散としている。

そこでなんばグランド花月を取り壊し、なんばグランド花月と美術館を併設する複合施設を提案する。昼間には吉本新喜劇、夜間には美術館によって周辺を賑わせ、さらになんばグランド花月と戎橋を結ぶ商店街の人通りを増やしなんばグランド花月を起爆剤とし夜間も街を活性化させる。

伊藤 佑悟
ITO, Yugo

ペットと共に暮らす環境

Environment for Living with Pets



近年、子供の数よりペットのほうが多いといわれるほどのペットブームで動物も家族同然の扱いを受けるようになっている。しかしながら、動物愛護先進国であるドイツなどに比べると日本は動物に対する権利や環境が確立されていない。

またペットの数が増えている分、理不尽な理由で保健所に連れてこられる動物もいる。現在の日本の動物保健所は「生きる」ことが中心になっており、「新しい家族を探す」ということに関して受け身である場合が多い。保健所自体、暗い雰囲気の漂うイメージがあるため、施設に入るのは壁に感じるという一面がある。そのため動物たちは新しい家族を見つけることができずにいる。誰もが気軽に訪れペットのかわいさを感じ、多くの動物が新しい家族と出合うことができる、ペットと人の暮らしをより良くする施設を作る。

岩本 七海
IWAMOTO, Nanami

経年劣化を愛でる

Renovating Abandoned Factories

昭和から平成そして令和へ。

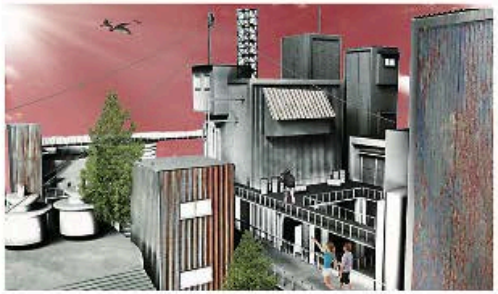
日本と大阪の経済成長を支えてきた堺臨海工業地帯の建築群は建設時、町の異物であったが、今となっては人々の記憶に刻み込まれ、都市の風景の一部である。産業遺産と言う言葉があるように町の歴史の語り部とされている。

近年、新しい技術やライフスタイルが変化していくにつれ、工場たちは稼働停止し次々と壊され、人々の記憶の風景は失われつつある。

今ある稼働停止されている工場の建築物をこの敷地に移築し、再構築する。そして、工場空間を利用したものづくりの場として生まれ変わる。

これからの時代、新しいもの、便利なものだけではなく、重ねられた歴史、何より私たちの記憶に残る風景大切にしてほしい。

経年劣化を愛でる。役目を終えた工場たちは新しい時代の創造空間として、進化し続ける人間たちと共にこれから活き続けていくことを願う。



中野 拓海
NAKANO, Takumi

図書街道　地域をつなぐ交流の場

Book Road: Communication Complex for Connecting Cities

JR阪和線の高架化に伴って生まれた帯状の遊休地と高架下の活用と地域コミュニティの希薄化の解決を目的に、図書館を中心とする複合施設を設計した。高架下と一直線に伸びる駅横の空間の流動性を生かし、地域住民の行動、交流を空間操作により実現する。

今回は今後この道を広げていくための拠点として、JR鶴ヶ丘駅周辺を敷地に設定。施設を帯状に配置しエリアごとに図書の配置やインテリアを工夫することにより、本を読む楽しみだけでなく街道沿いに移動しながら本を探す楽しみ、加えて街を歩くといった体験を生む。また図書館の役割として、本の貸借だけでなく様々なサービスの提供や情報共有を通じて街同士に新たなつながりをつくるきっかけを与える。

水田 有香
MIZUTA, Yuka

巣喰う街の観察日記

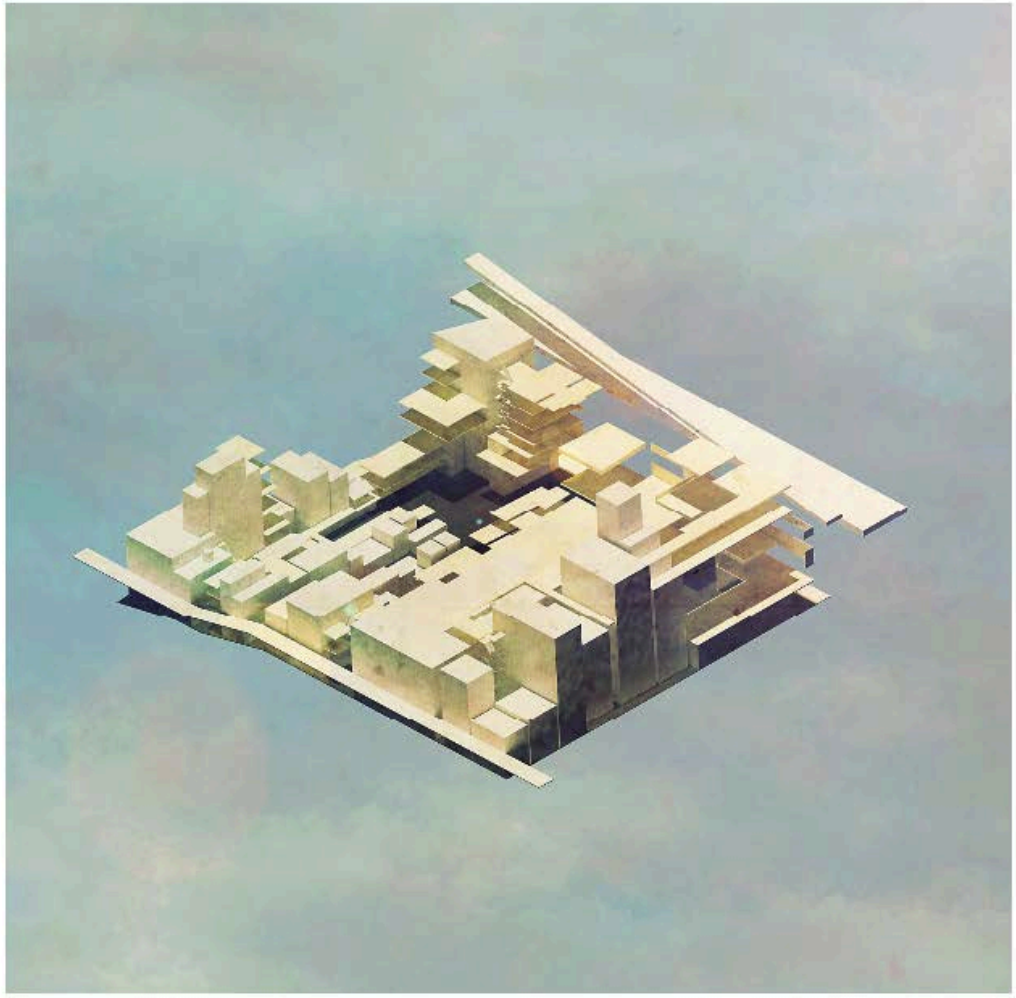
Imaginative Observation Diary of Future Urban Tissues Complicated by Repetitons of Expantion and Relocation

時代の流れの中で失われゆく小さな営みを顕在化させる事によって、この先起こるかもしれない出来事を観察し捉え直す為の作品である。

梅田 曽根崎2丁目。戦後から多様な者たちがひしめき合う街区だが、再開発よって建物は次々に取り壊され新しく建設される均質で巨大な高層ビルによって街の歴史や表情が失われようとしている。

そこで私はこの街の雑居という特性を用いて小さな営みを継承し、更新する提案をする。残された建物や過去の痕跡から雑居する者たちが巣喰い合う為の枠組みを設計し、長い年月をかけて絡み合いながら成長する街を形成してゆく。そして、この仕掛けがどの様な出来事を起こし、どの様な風景を守るのか未来の街を想像し、観察日記として綴った。

街は誰によって、何の為に作られるのか。私は多様な巣喰う者たちによって、それらの小さな出来事の集積が街を形作ると考える。

あなたなら、この街にどんな日記を想像しますか。

山田 泰輔
YAMADA, Taisuke